

論壇

社会の変化あまりに速く

若い時にしっかりと勉強して知識や経験を蓄え、それで一生食べていく。そんな時代はもう終わってしまったようだ。社会や技術の変化があまりにも速く、5年前、10年前に習得したことがどんどん役に立たなくなるからだ。こうした時代に人々はどうのように対応したらよいのだろうか。若い人とそうでない人、それぞれに一つずつ言いたいことがある。

まず、若い人であるが、知識や専門を身に付ける以上に、一般の常識や思考を深めることが重要になる。大学でいきなり専門に入る

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

のではなく、いろいろな分野を幅広く学ぶリベラルアーツ(一般教養)が見直されているのだ。知識そのものはすぐに陳腐化してしまうからこそ、学ぶ力を身に付けておくてはいけない。

中学や高校の教育でも、試験のために知識を丸覚えするのではなく、レポートをまとめたり、それ

リカレント教育の重要性

をプレゼンテーションしたり、さらには周りの人と議論する能力を強化する必要がある。

学校を出た後の人、つまり若い人、若くはない人はどうだろうか。ここで重要なことはリカレント教育ということだ。社会人になっても常に学び続けるということだ。自学自習

でもよいだろうが、可能であれば大学などの教育機関を利用することが有効だろう。

日本の大学教育の数字を見て、他国と大きく異なる点がある。それは大学生の平均年齢が若いということだ。日本では高校を出たらそのまま大学に進む。そして4年で大学を卒業したら、二度

と大学の授業を受けることはない。だから大学で授業をとっている人の大半は20代の前半までなのだ。

北欧などでは、高校を出てからまず社会人として仕事を体験し、そのあとに大学に入る人も多くいようだ。米国では30代になってから専門の知識を身に付けるために大学に戻ってくる人が少なくない。仕事を続けながら夜間や週末の授業に出たり、3カ月程度の集中コースに参加したりする人も多い。

社会の変化のスピードが速く、常に新しい知識が求められる。したがって、新たに学び直す機会を持つ、リカレント教育の重要性がますます大切になる。そしてリカレント教育を受けることは実は楽しいことも多いのだ。

気軽に学び直せる大学に

と、大変だが勉強にやりがいを感じた。こんなことなら、日本の大学にいた時からもっと勉強しておけばよかった」と。

米国のビジネススクールへの留学は特殊なケースであるとしても、地域に多くの人が気軽にリカレント教育に利用できるような教育機関があってもよいと思う。地域の大学がそうした機能をもっと強化すべきだろう。そこでは、高校から直接来たような若者を想定したこれまでのカリキュラムだけでなく、社会人の学び直しを意識したプログラムが必要となる。また、今の大学とは違って、さまざまな世代の人が交じった形のプログラムとなれば、知識を身に付ける以上の効果が期待できるかもしれない。

私の大学の時の教え子の多くは、仕事の経験を何年か持った後、米国のビジネススクールなどに行き、彼らの多くが言う。「社会人を体験した後、大学に戻ってみると、大変だが勉強にやりがいを感じた。こんなことなら、日本の大学にいた時からもっと勉強しておけばよかった」と。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。